

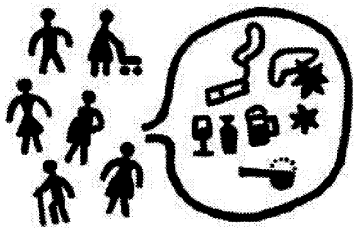
がん社会 を診る

中川 恵一

国立がん研究センターが都道府県別のがん患者数を6月に発表しました。日本ではがん患者の臨床情報を集めて治療に生かす「がん登録」が1月から始まったばかり。がん罹患(りかん)情報をまとめるのに時間がかかり、最新データが2012年のものではない状況が続いています。

それでも今回のデータには、埼玉県、東京都、福岡県が初参加し、宮城県と大阪府が復帰したことにより、都市部のがん罹患が明らかに。とともに、全都道府県での比較が可能となりました。

12年のがんと診断された男性は50万3970人、女性は36万1268人で、11年より1万4000人増えました。年齢構成を考慮した人口10万人あたりのがん診断数(年齢調整がん罹患率)では、11年より0.2%減り、長期的に増加傾向にあったがん罹患率



イラスト・中村 久美

データが語る、がんの地域差

に歯止めがかかりました。

部位別では、男性では胃、大腸、肺、前立腺、肝臓の順になりました。前立腺がんは増加の勢いが止まり、11年より順位を落としています。人間ドックなどで普及したPSA検査が一巡したためと思われる。一方、生活習慣の欧米化のためか、男性の大腸がんが急増しています。女性は乳房、大腸、胃、肺、子宮の順で11年と同じ順位でした。

がんの種類によって罹患率に地域差があることも明らかになりました。胃がんは秋田が男女とも一番多く、新潟、石川、山形、富山、鳥取など、塩分摂取量の高い東北地方や日本海側が上位を占めました。胃がんの原因の95%程度がピロリ菌の感染といわれていますが、塩分の高い食事はピロリ菌による胃炎を悪化させ、発がんリスクを高めます。

肝臓がんは佐賀、福岡、大分など、九州北部に多い傾向がみられました。肝臓がんの原因の7〜8割を占める肝炎ウイルスがこのエリアに多くみられるためです。

乳がんは東京が断トツのワースト1位ですが、欧米型の生活習慣とともに、全国最下位の出生率(1・17、15年)が関係していると思われる。妊娠と授乳中はホルモン環境が変わって生理も止まり、乳がんのリスクが減るからで、少子化は乳がんを増やす大きな要因です。ライフスタイルとがんの種類は密接に関連するのです。

(東京大学病院准教授)